四国4県生協からいわて生協「ふれあいサロン」へ

お菓子で生まれる心の交流

ふれあいサロンでのお喋りのきっかけになるように

お菓子提供のきっかけは、コープかがわの陸前高田市訪問でした。今年4月5日、コープかがわ理事長の木村誠さんや組合員理事が、被災地でボランティア活動を続けるいわて生協組合員と共に、戸羽太市長と懇談。「どんな支援ができるか」を念頭に、復興の状況や被災者の現状について話をしました。

懇談に同席していたコープかがわ組合員活動部の鈴木章博さんが、経緯を話してくれました。「岩手県内には315カ所の仮設住宅がありますが、1年経過して仮設を出る人、出る見込みのない人、仕事のある人、ない人など被災した方々の間に格差が出てきてギスギスした雰囲気になることがあるのだそうです。そんなとき、気持ちを和ませるのに大きな役割を果たしているのがいわて生協のふれあいサロンだということでした。そこで、ふれあいサロンでのお喋りのきっかけになるよう、香川のお菓子を贈ることにしたのです」。

コープかがわでは5月に再度陸前高田を訪問し、「ふれあいサロン」を見学。5月、コープかがわ組合員のメッセージを添えてお菓子第一弾を贈りました。その後、コープかがわがコープえひめ、こうち生協、とくしま生協の四国各生協に声をかけ、一緒にお菓子を贈る取り組みに発展したのです。

いわて生協常勤理事　組合員活動・広報管掌の金子成子さんが、「サロンを開催しても男性の参加が少ないのが課題になっている。ある時、珍しく男性の参加があり、コープかがわさんからいただいたお菓子をきっかけに“仕事で四国に行ったことがあるんだよ”と話が弾みました。とても役に立ちました」とうれしいエピソードを披露してくれました。

11日、いわて生協常務理事の角田信子さんの案内で陸前高田に向かいました。四国4生協のメンバーは職員・地域理事ら10人。岩手の被災地入りはほとんどの方が初めてです。

「去年震災後に石巻の親戚を訪ね、石巻の様子を見てきました。同じ被災地ですが、陸前高田はどうか。被災した方々の表情を見て感じとれることを、生協の職員や組合員に伝えてほしいと言われ参加しました」（とくしま生協企画部・多田道代さん）

「被災地はまだまだ復興が進まない。現地で見たことを組合員さんに伝えると同時に被災地の方へ、“えひめも応援してます”と伝えたい」（コープえひめ常任理事・竹村義則さん）

「うちの配送担当者も海の側を走っていることが多いので、津波の映像は考えさせられました。瀬戸内海は内海ですが配送担当者にこのことをきちんと伝え、災害に対する気構えを強めていきます」（コープえひめ共同購入宅配事業部西予支所長・橘謙太郎さん）

陸前高田に着いた一行は、いわて生協監事・被災地支援担当の飯塚郁子さんに案内されて津波で壊滅したまちの状況を見てまわりました。夏草に覆われた大船渡線の線路跡、川の途中で消えている陸橋、えぐられた護岸、波の力で剥がれたアスファルト。「河口から4キロも離れたところまで津波は来ました。このあたりにはずっと建物が立ち並んでいまし

た」。飯塚さんの説明に全員、言葉がありません。当日は震災から1年4カ月目の11日。道路沿いは行方不明者の捜索をする警察の姿がありました。

お菓子のお返しに心のこもった絵手紙をいただきました

午後、一行を乗せたバスは、「ふれあいサロン」が開催される市内4カ所の仮設住宅集会所に向かいました。

こうち生協の3人がサロン会場の中田雇用促進住宅でバスを降りると、ちょうど住民の方々が集まり始めていました。「あら、まだ早い？」「いいよ、いいよ、あがってください」。皆さん、サンダル履きで気軽に集まってきます。

中田雇用促進住宅に住む方々が、
紙手紙づくりにのめり込む。

いわて生協ボランティアチームリーダーの長牛和子さんから「今日は四国の生協の皆さんが来てくださっています」と紹介を受け、さっそく住民の方へお菓子を贈呈しました。お菓子に添えられた四国4生協の組合員のメッセージをこうち生協地域理事の扇谷京子さんが読み上げると、「ありがたいねー」と涙を見せる住民の方も。扇谷さんもつられてもらい泣きし、じんとくる心の通い合いでサロンが始まりました。

この日はボランティアチームが用意した「絵手紙づくり」です。長牛さんが持参した着物の端切れから絵柄を切り抜き、ハガキに貼っていきます。住民の方に混じって絵柄選びや糊付けを手伝う扇谷さん、「作業のBGMで聞いてくださいね」と童謡を歌う同生協地域理事の北村利枝子さん、報告用に写真を撮る同生協運営企画グループの山下眞二さん。作業が終わりに近づいた頃、住民の方から「いつも私たち助けられるばかりなんで、たまにはお礼を言いたい」という要望が上がりました。作成した2枚のハガキのうち1枚を四国の生協の組合員に贈りたいと言うのです。それぞれ「お菓子をありがとうございました」「気をつけてお帰りください」などのメッセージを書いたハガキを渡してくれました。

いわて生協ボランティアチームとコープこうちの3名、
中田雇用促進住宅に住む方々で、
記念撮影が行なわれました。

最後は北村さんが新聞紙を使ったエコバッグづくりを皆さんに教えました。時間がない中でも笑い声が絶えず、住民

の方は「こうやって笑うっていいねー。家の中にいるとこんなに大声で笑うことないもんね」「お菓子は家に帰ってゆっくり食べますね。おかげで楽しい1日を過ごすことができました」と話していました。

今後１年間は、月１回ずつ各生協が順番にふれあいサロンにお菓子を提供していく計画になっています。「遠いところからお土産を持ってきてくださった。もうそれだけで嬉しいんですよ」といわて生協のボランティアさん。お菓子を介した心の交流はこれからも続きます。